

ベランダで作る循環型堆肥

(堆肥の増えない、生ごみ処理方法)



用意するもの

乾燥させた腐葉土50ℓ位
新聞紙に広げてサラサラした感じになるまで乾燥させる
(1回目=腐葉土
2回目以降=腐葉土を使ってできた堆肥)

30ℓ縦長バケツ3個
貯蔵用容器 (段ボール箱・袋・バケツ等)

発酵・分解用 熟成用1 熟成用2 貯蔵用容器
(段ボール箱・袋・バケツ等)

布とゴムひも
布60cm四方 くらい2枚
ゴムひも70cmくらい 2本
かビニールひも 150cmくらい2本

移植ごて
かき混ぜる時に使う

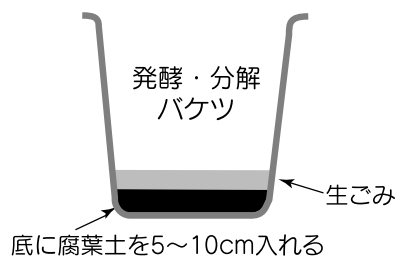
作り方

- 野菜くずなどの生ごみは水分を含まないように分けておく。
- バケツに腐葉土を5~10cm入れてその上に生ごみを入れる。
- 生ごみの半量から同量の腐葉土を入れてかき混ぜ、さらに腐葉土をかける。
- 虫よけの布をかぶせる。

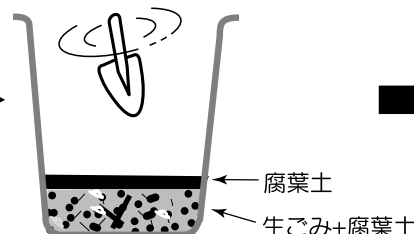
注意
塩分の多いもの、腐ったものは投入してはいけません



お茶がらやコーヒーかすは水分をギュッとしぼる。



とうもろこしの芯、枝豆の枝など固いものは小さくカットする。魚のアラはすぐバケツに入れ、多めの腐葉土を混ぜる。



好気性 (空気を好む) なのでよくかき混ぜる。



もし、ドブや下水のような臭いがしてきたら、水分過剰で腐敗が始まっているので、すぐに乾燥した腐葉土を混ぜるか、天日乾燥をする。多少の虫は、仲よくつき合うつもりで、もしコバエや虫が発生した場合は、水分過剰であることが多いので、水分調節をする。

①~④繰り返してバケツ8分目位になるまで投入する。

再利用

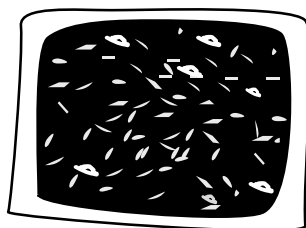
- 貯蔵用容器に移し貯蔵する。



魚の大きな骨や鳥の骨はもろくなるので、金づちなどでたたいて細かくする。

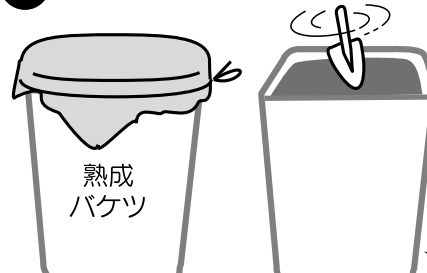
乾燥後、貯蔵

- 新聞紙に広げてサラサラした感じになるまで、天日で充分乾燥させる。



自然乾燥

- 1週間に1回程度移植ごてでかき混ぜる。

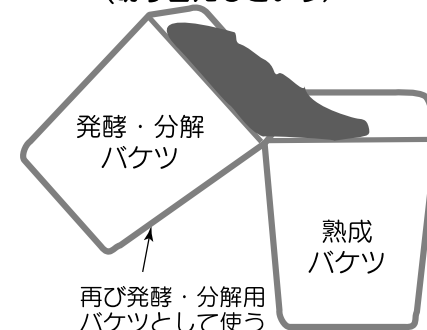


下部は水分が過剰になりやすいので空気を供給するようにかき混ぜる。

熟成中 (夏1ヶ月・冬3ヶ月) ※

※気温・生ごみの量により期間が異なる

- バケツ8分目位になったら熟成用バケツに移す。(切り替えしという)



写真入りで分かりやすく説明したホームページがあります。
<http://homepage2.nifty.com/mdtk/kiki/index.htm>